

## 国立大学法人 長岡技術科学大学

### 平成25年度第4回(第58回)経営協議会議事要旨

日時	平成26年1月24日(金)13時30分～15時10分
場所	KKRホテル東京11階【丹頂】
出席者	新原議長、東委員、池田委員、縣委員、小畑委員、神野委員、相岡委員、宮下委員、山崎委員、武藤委員、東委員、宮崎委員、中出委員、斎藤委員(議事の表決の委任による出席者:岡田委員、森委員)
陪席者	平山監事、滝上監事、伊藤附属図書館長(高橋長岡市理事(商工部長)兼エネルギー政策監)
事務局	総務部長、企画・広報室長、総務課長、人事・労務室長、財務課長、総務課副課長、財務課副課長、財務課予算係長、総務課人事・労務室人事係長、総務課総務係長、総務課総務係主任、

議事に先立ち、議長より第57回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

#### 審議事項

##### 1. 給与規則等の改正について

宮崎委員より、資料1-1、1-2に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

##### 2. 平成25年度変更(二次)予算(案)について

宮崎委員より、資料2に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 補正予算の施設整備実施予定事業である実験研究棟改修は、交付額が要求額よりも多くなっているがどうか。
- 消費税が26年4月より8%に上がることと、工事費の単価が上がってきており、その影響額を含めた内容と聞いている。

##### 3. 業務達成基準適用業務における実施計画等の変更(案)について

宮崎委員より、資料3に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

##### 4. 平成26年度学内予算編成基本方針(案)について

宮崎委員より、資料4に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 平成26年度政府予算案の概況における、「学長のリーダーシップの発揮」とは何か。
- 「国立大学改革プラン」に基づく様々な政策課題に機動的かつ重点的に活用するとする特別措置枠であり、本学における今年の学長戦略的経費では、例えば、7項目の研究課題をピックアップし、そこに集中的に配分している。その分野により5年以内に長岡技大が日本をリードし、10年で世界のその分野に関して長岡技大が世界の拠点になっているように、今から先取りという形で動いている。

その中に女性の先生方が中心となり立ち上げたプロジェクトで、小中学校の女子学生とそのお母様方を対象とし、女性が理系に興味を持ち、将来工学系に入ってこれるような人材を若い頃から育てようという取り組みにも出費している。これは将来の人口減少問題に取り組む地域貢献でもあり、本学と包括連携協定を締結している近隣市町村の教育委員会と連携しながら地域のモデルをつくり、他の地域にも広げたいと考えている。

施設・設備経費では、教育研究の基盤、及び宿舎等の生活環境の基盤となる部分で、学生宿舎、職員宿舎の耐震と老朽化の改修について本格的に取り組むこととした。

また、本学の人事については発案されたすべての部署から学長が意見を聞き、学長が最終的に承認の可否を判断しているが、今後は、改革プランにあるガバナンス機能の強化として、大学全体の人的資源配分に関し、外部の人が入った組織が必要ではないかと考えている。

- 教授会の改革ということが文科省の考えであり、教育の運営と執行の分離であると思う。今はその過渡期で、文部科学省の政策どおりにはいかないところがあるのではないかな。
- 本学は開学時から産学連携など他にない特徴を持っており、大学運営について良いところは持続し、変えなければならぬところは変えていく。本学が地域・国に、国際的に活躍し貢献するためには、もう一歩先に進まざるを得ない。改革のためには、教育現場と意見交換をしっかり行い、それぞれの立場を理解し、意見を集約のうえ一緒に動かなければならないと考えている。

#### 報告事項

##### 1. 平成26年度政府予算案の内示について

宮崎委員より、資料5に基づき、報告があった。

##### 2. 長岡技術科学大学の現状と実績について

学長より、経営協議会終了後の意見交換会の開催を踏まえ、意見交換時の参考という形で資料に基づき、本学の現状と実績について、最近のデータと併せて報告があった。

以上